

## 平成 30 年4月10日 市長定例記者会見 会見録

### 【市長】

それでは今日は朗報でありますので、さっそく本題に入りたいと思います。

4月1日の時点で、静岡市はついに、待機児童ゼロを達成しました。

これに至るまでは子ども未来局の市の局長をはじめとした担当課の職員が懸命の努力をしてくれて、一人一人のニーズに向かい合ってくれた成果の賜物だなと自負をしております。

ただ、まだまだこれから待機児童というベースの子育て環境の整備から充実していかなければならないことはたくさんありますので、そちらもしっかり、一つ一つ、予算のかかるものはきちっと予算をかけて、充実させていきたいと思っています。

都市部を中心に待機児童の問題が深刻化し、今なお解消の見通しが立たない中、国は待機児童解消の目標時期を3年先送りしましたが、静岡市は一貫して平成30年度の待機児童ゼロの旗を降ろすことなく着実に取組みを進めてきました。

具体的には、私が市長に就任した平成23年からこれまでの7年間で、保育所などの定員数を約3,800人分拡大をしました。これは7年前の33%増であります。その結果、待機児童数は、平成26年度をピークに、年々着実に減少し続け、昨年は40人、今年4月は、ついにゼロとなりました。

ただし、これで待機児童対策は終わりではありません。女性の就業率の上昇を背景に、利用する申込者数はますます増加しており、今後もその傾向が見込まれます。

こうしたニーズに対応しなければなりません。今年度はさらに、保育所などの定員301人分の整備を進めるとともに、局間連携で、働き方改革や女性が元気に活躍できるまちづくりに取り組んでまいります。以上です。

2つ目は市民部局の小さな一歩ここから始まる、という項目であります。

「ここからネット」が5月10日からスタートします。

まちづくりは人づくりと私、実感をしております。やっぱり財政が厳しいフレームワークの中では公共サービス、行政サービスを全て直営で市の職員がやるということができない、地域の方々が地域で課題を解決するといういわゆる自治ということがこれまで以上に求められるわけですね。

しかしながら皆さん、仕事もあるし、色々な制約の中でなかなか、市民協働というのは言うは易いけれども、達成できるものでは、簡単なものではありません。

そういう中で、私たちはシチズンシップ、自分さえよければいいのではなくて、何か地域に貢献したい、何か社会貢献の一翼を担いたいと思っている市民の方々、潜在的には多いと思いますので、そういう方々に呼び掛けて、「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」を運営しています。

市内各地でその修了生が子育て・福祉・環境などの分野で活動をはじめています。

最近では、清水の中山間地域である両河内で自主運行バスをやっているという運動があります。これは凄いことで、今までは静岡鉄道という民間事業者、プロフェッショナルが運行して、我々が補助金を出していたと。なかなか乗車率が芳しくない。そしてドライバー不足も相まって静岡鉄

道さん、ジャストラインさんからは、もう、申し訳ないけれどもこれは撤退させてほしいと、お金を補助金として出しても、もう少し事業性のある所にドライバーを充てたいから、これは赤字補填をしてもらっても撤退したいということになってしまいました。

それを両河内地区の皆さんが、静鉄ができないんだったら私たちがやろうと。「こ・こ・に」を修了した後、決意をしたわけであります。その結果、今月から停留所も増え、本数も増え、ドライバーも地元の女性たちが頑張っけて担ってくれるという中で運営をしました。そこを下支えしていくという行政の役割を、今、果たそうとしています。そんな市民活動を打ち込んでくださる人材は着実に育っています。

また、平成27年7月に実施した「静岡市市民意識調査」では、そういったチャンスがあれば活動に参加したいけど、そういう情報がないんだと答えた市民が約30%いるということも判明しました。

そういう方々にどこで何を社会貢献運動としてやっているよということを情報提供し、自分の問題意識の合った人との相互交流ができるような、情報の共有化ができるような新しいウェブサイトを「ここからネット」として取り組むことにしたということであります。

#### 【司会】

それではですね、そのサイトを画面で実際に見ながらと思いますので、よろしくお願いします。

#### 【市民自治推進課 説明】

市民自治推進課です。

ウェブサイトですが、市民意識調査で活動への参加が少ない20代から40代の方もスマートフォンで、まさにスマートに使えるようにデザインを工夫し、ちょっとした時間に手軽に操作できるようになっています。

ウェブサイトの特徴は三つあります。

一つ目は、今まで個々に発信していた市民活動団体の情報を集約し、地域活動分野ごとに検索ができます。

二つ目は、活動の情報を地図上で簡単に探せます。

市民活動団体の活動場所やイベントの開催地などがインターネットの地図上に表示されます。ボランティア活動やってみたい、でもどこで何をやっているのかわからないという方も自分の住んでいる地域の情報を簡単に探せるようになります。

三つ目は、ここからネット最大の特徴です。

あらかじめ設定されたテーマを選択すると、それに関連した情報が地図上に重ねて表示されます。例えばテーマの中から子育て支援を選択すると、子育て支援に関わるNPOやママさんサークルなどの市民活動団体の情報だけではなく、認定こども園、保育園、幼稚園、認可外保育施設といった市の情報もあわせて地図上に表示できます。

また、なかなか市民活動には参加する時間がない方でも、気軽に参加できる市民活動としてLINEアプリを活用し、地域に密着した市民目線の情報を集める仕組みを作りました。

例えば、この公園はおむつ替えができるトイレがあるといった情報を位置情報付きの写真と合わせて投稿できるようになります。説明は以上です。

#### 【市長】

これ淡々と説明してくれましたけども、すごく野心的な取り組みで国内初の取り組みであるのは、行政情報と市民活動情報を同じ画面で重ね合わせて情報提供できるということでもあります。

あるいは、LINE から市民の投稿ができるということを行政がコーディネートするというので、これ国内初めての取り組みです。なので、どうやって社会貢献をしたい、地域のために何か役に立ちたいという市民が参画しやすい、環境を作っていくのか、それを行政が取り込んでいくのかという官民連携をする仕組みをこの Web サイトで整えたというのは、最大の特徴で非常に野心的な取り組みだと、ICT をうまく活用した野心的な取り組みだということをご理解いただければと思います。

いずれにせよ、去年ライフシフトが大ヒットしたように人生百年時代を迎える中、今まで会社人生だったと、これからはそのノウハウで地域に貢献したい、世の中に何か役立てたいと潜在的な気持ちを持っている市民は多いと思います。

そういう思いを実際にやっている活動、自治会町内会だけではないんだよという実際の活動をつなげる仕組み、これをここから検索をし情報入手し、コミットしてほしいという意味で名付けた「ここからネット」で、ぜひ市民力というものを発揮できる市民協働型のまちづくりを進めていきたいという願いを込めて、今日はプレスリリースさせていただきました。以上です。

#### 【司会】

只今の発表項目につきましてご質問がある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は社名とお名前をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

それでは、幹事社さんの方から代表質問をお願いいたします。

#### 【幹事社質問】

幹事社の朝日新聞です。

先日の静岡まつりでは今川義元公、お似合いでございました。お疲れ様でした。

市長は二期目、最終年度であります。この7年間ですね、ほとんどやり尽くしたと今後は新たな道の展開をしたいと考えなのか、いやいやいや、まだ世界に冠たる静岡市を作るにはもう4年、いや8年と時間が必要だと思いののか、二期目の最終年度にあたっての市政に対する思い、意気込みをお聞かせください。

昨日、第1回の平成30年度の新しいチーム静岡市役所の局長会議が開かれて、その場でも私、申し上げたんですけどもね。あのご指摘の通り、4年の任期の最終年度にあたる私の思いの一端として着々と3次総、そして、その中でとりわけ重要視する五大構想を進めてまいりましたが、やはりそれを市民の皆さんに伝えなければいけない、理解いただいて、少し静岡市が頑張っている取り

組みで変わってきたなという実感を持ってもらわなきゃいけない。そのことを情報発信、ちゃんとして伝わるようにしよう。今日の待機児童ゼロというものが首都圏を中心に大都市が悪戦苦闘している中で、何とか政令指定都市の上位グループにこの数字を上げることができたということも、ちゃんと子育て中のお母さん方に朗報としてね、伝わる努力をしていこう。私自身が一番その PR 役をかって出なきゃいけないけども、局長の皆さんにもそれぞれ自分の局以外のことにも情報発信力を含めて市の職員が頑張って、この 3 次総、5 大構想に取り組んでいるんだということを伝わってなんぼっていう風に思いますので、そこどころの見せる努力を今年は 1 年、意識的にやってきたいなという風に思っています。

これも、施政方針演説でも言及をした今年の施政方針の一丁目の一番地でありますけども広報課を中心に頑張ってきたいなと思っています。

#### 【司会】

フリーの質問ということにまいるたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

#### 【静岡新聞】

今日の朝刊で報道があったんですけれども、千代田小でのいじめがあって、市教委が第三者機関による調査をはじめたという件なんですけれども、それに関して質問させてください。

児童の保護者が第三者機関の調査方法に不服といいますか、疑問を持って、市教委と市長部局に調査するように昨日、市長に申し入れたかと思うんですけれども、今後どのように取り組まれていきますか。それに対しては。

#### 【市長】

これ平成 25 年の 9 月に施行された法律の枠組みの中で、初めて市長部局がこのような委員会を申し立てを受けるということになりましたので、適切に対応していきたいと思っています。

#### 【静岡新聞】

具体的なところは検討されていますか。

#### 【市長】

昨日申し立てを受けまして、今日から議論を始めている最中でありまして。

いじめを、無くさなきゃいけないという思いは、念頭に置きながら頑張らなきゃいけないと思っています。

#### 【静岡新聞】

第三者機関の調査手法についてなんですけれども、保護者側には児童の主治医に対する聞き取りのみを行う方針を伝えているとのことなんですけれども、この調査手法に対してはどのようにお

考えですか。

**【市長】**

市長部局に委ねられた責任をいろいろな報告を私がもらいながら、適切に判断をしていきたいと思えます。昨日、申立書をいただいたばかりの今日のタイミングの記者会見ですので、私もこれからどんなあり方をしていくのか、教育委員会が昨年の秋からこのことについていろいろ調査をしていたことも詳細について、きちっと報告はもらっていましたが、さらに踏み込んで昨日の申立書を受けて対応していきたいと思えます。

**【静岡放送】**

相撲の話なんですけれども、日曜日に、市長挨拶の中で変えていかなければというお話をされてらっしゃったかと思いますが、改めてその市長の思いとですね、昨日ニュースになっていましたが、掛川の市長があまり適切ではない発言をされたというニュースがありました、その受け止めと二点、教えていただけますでしょうか

**【市長】**

まず1点目についてはね、やはり舞鶴市長が映像見る限りですけども、女性の看護師のスキルによって一命を取り留めたということ、そのことは本当に重い、今回のことだったなあというふうに思っています。

その時にアナウンスがあったというのは、やっぱり常識的にまずかったということでもありますね、伝統は大切です。伝統は大切ですけれども、本当にオリパラに向けて相撲というスポーツも大変注目されてますし、外国人力士も数多く活躍をしていく、これからスポーツとしての相撲が国際的に発展していくためには、やはり女性をいかなる時にも土俵に上げてはいけないというルールは国際的に認められるのは、特に先進国に認められるのは難しいと。それだけスポーツとしての相撲が注目されるということの裏返しだと思いますけれども、そういうことだと思いますので、そのことの議論を深めていただきたいなという風に私は呼びかけたつもりです。

**【静岡放送】**

二点目の方の、掛川市長の不適切な発言があったことについて、どうお感じになりましたでしょうか。

**【市長】**

私は静岡市長の立場として、あのようなコメントをしたということですので、掛川市長が掛川市長の感覚の中で話をしたことですので。

**【静岡放送】**

同じ市長として感じることはありますか。

【市長】

ノーコメントです。ごめんなさい。

【朝日新聞】

もうちょっと女性から声を聞いたんですけど、市長はせっかくだいいことを言ったのに、どうしてあれを土俵の下から言わなかったのかと。それについてどう思われますか。

【市長】

やはりルールで、土俵の上に上がってくださいと若い方に促されましたのでね。

【テレビ静岡】

節目なので、質問させて頂きたいんですが、静岡市が推計人口 70 万人を割って 1 年が経ちました。色々な取り組みを進めているということはもちろん承知はしているんですけども、この一年の人口の推移をみても、5 月だけ増えていて、その後は、また減る一方だったと思います。

2025 年に人口 70 万人維持を掲げているという中で、この現状をどのように受け止めているかということと、また今後この目標の変更だったりって言うのはするのか、また、この問題をどのように受け止めて今後取り組んでいくのか伺いたいと思います。

【市長】

もう節目なので、私もね、心新たにね、人口活力の維持ということに、今年度二期最後の一年注力していきたいという風に考えているということをお伝えしたいと思っています。

ただし、今までの取り組みの中でね、確かに 3 次総に掲げた静岡市域内の定住人口 70 万人維持というストレッチ目標は、それに近づく努力はしていきますが、それだけではない 5 市 2 町を含めたあるいは、定住人口だけではない交流人口の増大というものも視野に入れた人口活力維持策、定住人口の人口減少対策と言うよりも、要は人口活力の維持をすればいいってことなんです。

確かに、人口活力というのは物やサービスを売ったり買ったりという経済活動になくてはならない源ですね。その人口活力ということは維持していかなければならない。だから人口減少対策というよりも人口活力維持策、外から人を静岡市に寄せてくるということも含めて、あるいは 5 市 2 町の域内の人口のものが、人が動けばものが動き、それが経済活動になってきますので、意外と島田市の市民の方々は清水で何をやっているか呉服町までは来るかもしれないけども、何をやってるかご存知ない。あるいは静岡市民が牧之原で面白いイベントがあるのにあまり知らないというようなことを情報共有化するためのね、広報紙も 5 市 2 町の首長からプレスリリースさせていただきますけれども、そんなことをしてその情報の共有化を図って、5 市 2 町の交流というものを深めていく。あるいは 5 市 2 町、旅行者観光客にとって市境っていうのはないわけですから、協働して観光の受け皿に

なるという風に方向性を持って中枢連携都市をせっかく形成したわけですので、DMO とも協力をしながら、そこでも人口活力を得ていきたいという風に思っています。

【テレビ静岡】

70 万人維持というのはどうされますか。

【市長】

これはストレッチ目標ですので、難しい目標です。

これはもう策定をした 3 年前から、もうわかっていたことですが、あえてこれをやるんだという目標を掲げました。

【テレビ静岡】

そのまま置いておいて、今後もそれに向かっては取り組んでいくということによろしいですか。

【市長】

あの先ほどの待機児童ゼロも同じなんですけども、ストレッチ目標と言います。達成度 100%のマニフェストや総合計画しか掲げないという自治体もありますが、最初から私はそうではない。あの自分の人生においても自分が思った以上の自分にはなれないじゃないですか。私は静岡市長ですから静岡市長が思った以上の静岡市にはならないんですね。そういう意味ではストレッチ目標が必要だと。この前、若い方々にも申し上げたことなんですけれども、あの例えば竜爪山。1006mの標高の山があると。よしこれを登るぞという風に目標を立てて登った。よし目標を達成した。いい景色だな、これもひとつのケースです。

もう一人の方は、富士山に登ろうと。同じ山登りですね。

ただ富士山は竜爪山に比べて、大変険しい山だし、大変な体力が必要です。

そこまで頂上見れるのに、もう本当に刀折れ矢尽きたとって、とにかく八合目で断念して目標達成できないということもあるだろうと。でもその人は、少なくとも 3000m までのことですね。あと 776 mダメだったけども。目標達成の仕方、よし竜爪山に登ろう、でも今日達成しても 1006m。こっちは富士山に登ろうと思ったけど達成できなかったんだけど 3000m。どっちの方がいい景色が見られるかということは自明の理であります。なので、現実ギリギリ達成できる可能性がゼロではない、というところに設定をしたというのが、今回の人口 70 万人維持ということでもありますので、そこに向けてとにかくあらゆる政策を外に出していきたいというふうに思っています。

ただ、多角的に議論をしていただきたいし、記者もそこだけじゃないんだよ、要は人口活力の維持なんだよ、分かりやすくね、報道した方が伝わるのかもしれないけども、そう単純なものではないんだと。人口活力の維持っていうのは本当に多面的な指標があり、そして、その多面的な取り組みの中から得られるものなんだということですので、定住人口の 70 万人維持という一本足打法だけではないということは、ぜひ報道にあたって留意していただきたいという風にお願いたします。

**【静岡放送】**

先ほどのいじめの話でもう一点ちょっと伺いたいんですが、すごく教育委員会も市もこれからじっくり丁寧に対応されていくという形になると思うんですが、一方で、それを相談している側の身になってちょっと気持ちで考えてみると、やはりスピード感も求めたいとお思いでしょうし、あと逐一報告、たくさんどんな状況なのかという報告も欲しいなというふうに思いますけれども、そういったいわゆる保護者の方、あるいは被害を受けた子どもの方、お子さん、そういった方には、どういう姿勢で対応されていくお考えでしょうか。

**【市長】**

やっぱり、私が一番考えるのは、そのお子さんの気持ちですね、その切なさ。それをやっぱり想像して、共有したいと思っています。

さいわい、市の教育委員会が、ご家族の方とも接触をしているということですのでね、そういう情報もしっかり、私、報告を受けて、対応してまいりたいなと思っています。

**【静岡朝日テレビ】**

清水のLNG火力発電所ですけれども、計画が白紙になって、非常に広い土地が出てきました。この土地の利用方法について、市長のお考えを聞かせてください。

**【市長】**

昨日、市議会の特別委員会からも要請を受けましたので、まずは土地を有している、地主たるJX-TGの方に、これから、我々が清水のまちづくりを考える協議体を作りますので、その一員になってほしいという呼びかけをしていこうと思っています。

**【静岡朝日テレビ】**

サッカー場なんて言う声もあるようですけど、それについてはいかがですか？

**【市長】**

去年、経済団体から、そういう要望も受けております。

いろんな選択肢があろうかと思うんですね。ただ、今は、とにかく地主がJXTGさんですのでね。JX-TGさんが、撤退する、発電所は作らないという選択をしたそういう状態に、やはり私は、ひとつ間を置いた再スタートが必要なんではないかなと思っています。

はやる気持ちはよくわかりますけどね。

**【時事通信】**

さきほどの相撲の話に戻るんですけども、市長個人の見解としては、緊急事態であれば女人



禁制だとしても土俵に上がってもいいんじゃないかというご意見ということでしょうか。

【市長】

そういう見直しを、議論を、一石を投ずるという意味で言いました。

【共同通信社】

一番最初の話題に戻って恐縮なんですけれども、待機児童ゼロの関係で、改めてご所感をちょっとお聞きしたいのと、最初にですね、まだまだこれからも待機児童というベースの子育て環境を整備していかななくては、ということをおっしゃっていたんですけれども、今回ゼロになっていて、一方でそういった意識があるというのはどういったところからなのか、ということをお教えください。

【市長】

そうですね。こういった待機児童ゼロということを、皆さんに報道していただくと、私も働いてみようかなと思うお母さんも増えると思います。

そうすると、また申込者が増えるわけですね。そうするとその受け皿をまた拡充しなければいけないとなる。

だから、年度途中には待機児童が出るかもしれない。そして、それを来年の4月までに、またゼロにしていくという受け皿作りというのを、まず基礎的な作業として、していかなければならない。

今度は小学校に入学すると、やはり今まで7時まで預かってもらっていたこども園、保育園が、放課後児童クラブは6時まで。そうすると一時間仕事を早く切り上げてやらなければならないということはずごく不便なわけですね。

今までどおり7時まで、仕事をされているとよくわかると思いますけど、今まで7時までこども園の頃と同じように、小学校でも放課後児童クラブで預かってもらいたいよ、という要望がある。

だから、その切れ目をなくすためにも、今、7時に段階的に移行している放課後児童クラブもありますけども、まだ人件費の確保、支援というと完全ではない、ということもやっていかなければならない。

さらに高学年、6年生、だいたい5、6年になると外で自分でね、遊ぶようなことが、ある程度安全になってきますけれども、高学年、小学校の間中は、やっぱりそういう確保をしていくというニーズもあるでしょう。

なので、そういう社会進出をする女性が子育てしながら、働ける環境というのは、もっともっと、ここから充実していかなければいけないという現状認識は持っています。

【司会】

よろしいでしょうか。記者の皆様、ありがとうございました。

【市長】

せつかくなので、当事者として子ども未来局長、頑張ってくれましたのでね、そのあたり、今のいい質問をいただいたので、少し補足していただければと思います。

#### 【子ども未来局長】

整備の話がありましたけれども、さっき市長が話したとおりで、年度内にはまだ申し込みが、どんどんどんどん増えてきます。

それを受け入れるというようなことで、整備というのが、今年度もまだちょっと整備する部分がありますので、そういった部分で必要があるということでもあります。以上です。

#### 【市長】

待機児童園というね、これはかなり野心的なんですけども、ぜひ取材にいつてほしいんですけども、市単独で、年度途中で、とにかくワンポイントで預かってくれという待機児童園というのも市内各区に一か所ずつ作ってあります。

これ国庫補助が何もないんですよ。だけれども、ワンポイントで、待機児童園、翌年の春まで預かるというシステムを作って、ここまで持ってきたと。作って、それをセーフティネットにしながらここまで持ってきたという、過去、私が市長になってから7年間くらいの、一步一步の政策の充実というのは自負をしています。

保健福祉長寿局を独立して、子ども未来局という一局を作ったということも、子育て支援をとにかく力を入れていきたいということの私の方向性であります。

ただ、子どもはすぐ育って小学校に入りますからね。なので、放課後児童対策、そのところはこれから大事にしていきたいなというふうに思っています。